



上田市の別所温泉では、毎年7月に、雨乞いの儀式「岳の幟」が行われます。

室町時代の大干ばつの時に、村人が夫神岳（おがみだけ）の山の神に雨乞いをしたら雨が降ったことから、各家で織った布を奉納するようになったのが始まりといわれ、以来500年も続いています。

祭りでは、長さ約6mの竹ざおに色とりどりの反物をくくりつけた幟の行列が練り歩き、笛や太鼓のリズムに合わせて獅子舞やこども達によるささら踊りも披露されます。

国の選択無形民俗文化財に指定されている珍しいお祭りです。

開催場所 別所温泉街～夫神岳（上田市別所温泉）

開催時期 毎年7月15日に一番近い日曜日

アクセス 上田駅から上田電鉄別所線の「別所温泉駅」下車、徒歩約10分
上信越道「上田菅平IC」から国道144号→143号を西へ進み県道65号に入る。神畑交差点を右折して、県道177号（コスモス街道）経由約30分

問い合わせ 別所温泉観光協会 ☎ 0268-38-3510

別所温泉は信州最古とされる温泉です。上田市の西南に広がる塩田平一帯は「信州の鎌倉」と呼ばれ、鎌倉時代から室町時代にかけて造られた神社仏閣など、数多くの文化財が残っており、塩田平は、美しい日本の歴史的風土準100選に選定されています。

また、雨の少ない塩田平は江戸時代より大小合わせて100ヶ所のため池が築造されており、「塩田平のため池群」として農林水産省のため池百選に選定されています。

ねつおくり

なんと
【富山県南砺市】



開催場所
南砺市荒木地内

開催時期
毎年7月下旬（土用の三番）

アクセス
JR城端線「福光駅」から徒歩10分
東海北陸道「福光IC」から約4km

問い合わせ
南砺市文化・世界遺産課
☎ 0763-23-2014

土用（立秋前の20日間）の三番、この日は、福光地方の年中行事のひとつで、ねつおくりの奇習が古くより伝わり今も行われています。子どもたちが「ネツオクルバイ」と囃して笹竹で田んぼを払い、「ジジ、ババ」と称する二体の神様を担ぎ回し、稲の病虫害退治を願うものです。

現在この種の夏祭りで完全に近いものとして残るものはこの地方だけで、全国的に珍しい行事であり、約300年前から続いているこの伝統行事は地域の子どもの心をつないで受け継がれ続けています。

周辺情報

南砺市は、山間部の五箇山は世界文化遺産に登録された合掌造りの集落が知られており、平野部では、屋敷林に囲まれた家々が点在する全国でも珍しい散居村の風景が広がっています。

また、「ねつおくり」に合わせて、福光商店街を中心に「福光ねつおくり七夕祭り」が行われます。七夕飾りの歩行者天国、大太鼓のねり打ちや民謡街流し、花火など多彩なイベントが盛大に繰り広げられます。

よこえ むしおく 横江の虫送り

はくさん
【石川県白山市】



虫送りとは、農作物の害虫を村境や川、海、山などに送り出し、その年の豊作を祈願する農耕行事です。

「横江の虫送り」は、毎年7月の“海の日”の前日の日曜日に行われます。日没を迎えると、若者が担ぐ桶胴太鼓を先頭に行列が宇佐八幡神社を出発し、手に手に松明（たいまつ）を持った人々がそれに続きます。田んぼを一回りした後、参道に設けられた火縄アーチの下に集合します。一斉に太鼓の乱打が始まると、アーチに火が点火され、「虫送」の炎の字があざやかに浮かび上がります。若者たちは太鼓を打ち鳴らしながらその下をくぐって神社へ走り出し、境内の大かがり火が点火されます。舞い上がる火の粉と虫送り太鼓の競演は、一見の価値があります。

- | | |
|-------|---|
| 開催場所 | 白山市横江町内（宇佐八幡神社ほか） |
| 開催時期 | 毎年「海の日」の前日の日曜日（2020年は「海の日」に開催） |
| アクセス | タクシーで、JRの金沢駅から30分、松任駅から10分、美川駅から15分
北陸道「白山IC」から南へ10分 |
| 問い合わせ | 白山市文化財保護課 ☎ 076-274-9579 |

周辺情報

横江町は、手取川扇状地の北東端に位置し、古くは弥生時代から人々が暮らしてきた歴史ある集落です。平安時代には、東大寺の荘園が設置され、東大寺領横江荘遺跡として、国の史跡に指定されています。

かどわき あまごいおど
門脇の雨乞踊り

もとす
【岐阜県本巣市】



アクセス

JR大垣駅から樽見鉄道「樽見駅」下車、樽見駅よりうすずみ温泉四季彩館行きシャトルバス利用（四季彩館に要確認）
東海環状道「大垣西IC」から国道21号、県道23号、国道157号を大野方面へ50km（「うすずみ温泉四季彩館」の駐車場を利用）

本巣市根尾門脇の八幡神社で、毎年9月、約700年前から続くとされる雨乞踊りが行われます。

元々は、この地に住み着いた源氏の武士達が、戦勝と武運長久を祈願する神事として八幡神社に太鼓踊りを奉納したのが始まりで、それをこの地の農民が引き継ぎ、雨乞踊りの神事へと変化したものであると伝えられています。

雨乞踊りは、太鼓と鉦（かね）を囲み、扇子を手にした里人が「掛け踊り」、「引き踊り」、「礼踊り」と歌いながら舞い踊ります。市の無形民俗文化財に指定されています。

開催場所	八幡神社（本巣市根尾門脇）
開催時期	毎年9月第3日曜日
問い合わせ	本巣市教育委員会社会教育課 ☎ 058-323-7764

【写真提供：本巣市教育委員会】

周辺情報

根尾地域にある淡墨桜（うすずみざくら）は、樹齢1500余年、樹高17.3m、幹囲9.4mの名桜で、満開はつややかな白、散り際には淡墨色になることからその名が付けられたと言われています。大正11年に国の天然記念物に指定されています。

八幡神社の近くにある「道の駅うすずみ桜の里・ねお」では、地元で採れた新鮮な野菜や山菜、農産加工品、お土産などが販売されています。

しいで おに まい 椎出 鬼の舞

くどやまちょう
【和歌山県九度山町】



和歌山県九度山町の椎出厳島神社では、毎年8月16日、天災や悪疫の退散、五穀豊穡、また雨乞いを祈願して、夕方から「椎出 鬼の舞」が奉納されます。

祭事では、十人衆と呼ばれる16歳以上の男の子から選ばれた10人が太鼓、笛、音頭取り、小謡を行います。鬼は十人衆以外から選ばれ、当日まで誰が鬼役なのか伏せられます。髪の毛の長い鬼が長い棒を振りかざし、太鼓や笛にあわせて繰り広げる舞は日没まで続きます。

室町時代から続くとされており、昭和39年に県の無形民俗文化財に指定されています。

開催場所	椎出厳島神社（九度山町椎出3）
開催時期	毎年8月16日 17時～
アクセス	南海高野線「高野下駅」から徒歩3分 京奈和道「高野口IC」から車で20分（駐車場なし）
問い合わせ	九度山町産業振興課 ☎ 0736-54-2019（代表）

周辺情報

九度山町は、真田昌幸・幸村父子が閑居した真田庵や世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録された慈尊院、丹生官省符神社、高野山町石道があります。

また、名勝玉川峡をはじめとする豊かな自然に恵まれており、夏は鮎釣りやキャンプ、秋は日本一を誇る特産品「富有柿」の収穫で賑わいます。

かねこばら むしおく おど
鹿子原の虫送り踊り

おおなんちょう
【島根県邑南町】



開催場所 三穂両神社、鹿子原集落内
(邑南町矢上)

開催時期 毎年7月20日

アクセス 浜田道高速バス「瑞穂インター」下車、おおなんバス
瑞穂インター線邑南町役場
行き約15分「鹿子原」下車。
浜田道「瑞穂IC」から県道
327号経由で約15分。

問い合わせ 邑南町観光協会
☎ 0855-95-2369

鹿子原集落で、毎年夏に200年以上続けられている「虫送り踊り」。五穀豊穡を願う虫送り行事としては、古形を残す全国でも数少ないものといわれています。

花笠に浴衣、紅たすき姿の若衆が腰に太鼓をつけ乗馬姿のワラ人形を中心に繰り出し、独特の「虫送り唄」に合わせて行進し、町内各地で害虫退散を願い踊りを披露します。

最後に諏訪神社の境内で踊りを奉納し、虫が付いた短冊と花笠の飾りを焼き払うことで、五穀豊穡と害虫退散を祈願します。

周辺情報

邑南町には豊かな自然と食を楽しむ様々な観光スポットがあり、鹿子原集落の近くには、景色の美しい「香木の森公園」があります。

ここには、温泉や宿泊施設、ハーブガーデンや邑南町のA級グルメの発信拠点レストランなど様々な施設があり、年間をとおして楽しく過ごせる場所です。

にしや じんだいおど 西祖谷の神代踊り

みよし
【徳島県三好市】



西祖谷の神代踊は、毎年旧暦6月25日に、三好市西祖谷の善徳天満宮で行われる夏祭りで奉納される踊りです。

編み笠の男たちが笛や太鼓、鉦（かね）を打ち鳴らしながら小唄を歌い、雨降りを表すという紙飾りが付いた花笠をかぶった踊り子たちが、扇子を振りながら輪を作って踊ります。

踊りの起源は、平安時代、菅原道真が讃岐守（さぬきのかみ）であったときの干ばつ時に、雨乞いを祈願して踊ったのが始まりだと伝えられています。

開催場所 天満宮神社（三好市西祖谷山村善徳）

開催時期 毎年7月～8月（旧暦6月25日）

アクセス JR土讃線「大歩危駅」下車、四国交通で約20分「かずら橋」下車、タクシーで約30分
徳島道「井川池田IC」から国道32号・県道45号等で約80分

問い合わせ 三好市まると三好観光戦略課 ☎ 0883-72-7620

周辺情報

三好市西祖谷山村は、平家の落人伝説で知られる山深い「秘境」ともいえる地域です。急傾斜の山の斜面に張りつくように広がる集落、吉野川の切り立った岩肌が続く大歩危、祖谷川のかずら橋と渓谷など、見応えある観光スポットが各所に存在しています。

おたうえしんこうしき 御田植神幸式

あそ
【熊本県阿蘇市】



御田植神幸式は、国指定重要無形民俗文化財「阿蘇の農耕祭事」の一つで、神様が稲の生育状態を見て回る、阿蘇神社最大の祭事です。一般的には「おんだ祭り」と呼ばれています。

神様たちを乗せた4基のみこしを中心に、神様の食事を運ぶ全身白装束の宇奈利（うなり）、早乙女、馬に乗った神職らからなる約200人の行列が昼前に神社を出発。田歌に合わせてゆっくりと田園の中を練り歩き、夕方、神社に戻ります。

開催場所 阿蘇神社（阿蘇市一の宮町宮地）
開催時期 毎年7月28日
アクセス JR豊肥本線「宮地駅」からバスで5分
九州道「熊本IC」から車で75分（駐車場あり）
問い合わせ 阿蘇神社 ☎ 0967-22-0064

注：2019年時点では、熊本方面からのJRは運行停止となっており、熊本方面からはバスで訪問する必要があります。

周辺情報

阿蘇のカルデラは世界有数の規模を誇ることで知られており、阿蘇神社のある一の宮町はカルデラ盆地の中に含まれています。

阿蘇には美しい景観スポットがたくさんあり、なかでも阿蘇北外輪山の最高峰の大観峰は、阿蘇五岳に加え九重連山も望め、阿蘇の雄大な自然を満喫できるスポットです。

また、阿蘇の草原を活用した農業は、2013年に世界農業遺産に認定されており、貴重な草原性動植物が保全されています。